

DOCUMENT EYE

146

信号のない交差点での自転車の行動を観察する 自転車105台中、一時停止をした自転車36台、 左右確認をした自転車16台

WHY

信号のない交差点での自転車の運転行動は?

自転車は幼児から高齢者まで利用でき

る便利な乗り物である。毎日の通勤や通学、買い物などに最適であり、家族全員が所有している例も珍しくない。

平成13年中の自転車第一当事者となった交通事故の発生件数は、実に2万4845件を数えている。その発生原因と

しては、安全不確認(6366件)、一時不

停止(5443件)がそれぞれ全体の2割以上を占めている(警察庁統計より)。

WATCHING

若者に多い片手運転、ながら運転

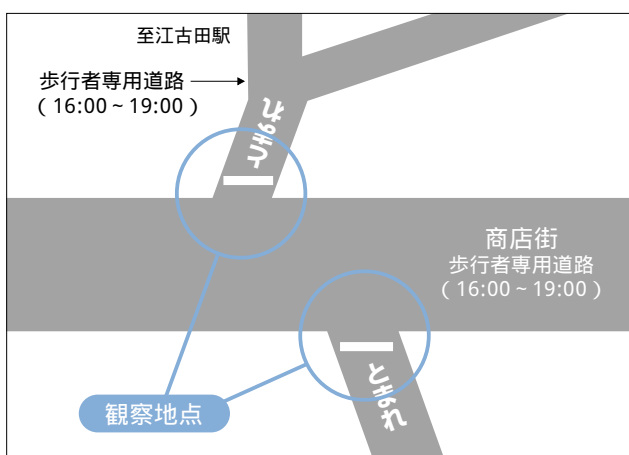
観察場所は、東京・練馬区の私鉄駅周辺に広がる商店街内の小さな交差点。周辺には3つの大学と小・中学校、高等学校があり、若者の数も多い。観察時間帯では通勤・通学の歩行者に買物客が加わり、自転車の利用者も想像以上に多かった。

観察地点は、商店街と駅に向かう路地が交差する部分。それぞれ一時停止の指示(標識および道路標示)があり、駅に向かう路地は観察時間帯は「歩行者専用道路(16~19時)」となる。この場所では地側からやってくる自転車の一時停止と左右確認について年齢層別に観察した。

1時間半の間に観察された105台の自転車のうち、一時停止を行なったのは36台(34.3%)、また、左右確認を行なったのがわずか16台(15.2%)だった。

観察中に、特に目立ったのが、携帯電話をかけたまま走行する若者で、男女問わずみられた。また、タバコを吸いながら、缶ジュースなどを持ちながら、ハンドルを持ちながら、といった「ながら運転」が多く、中にはポケットに手を入れたままの片手運転の人もいた。そのほとんどの人がハンドルを軽く握っているようにみえた。

このほか、歩行者専用道路の時間帯にもかかわらず原付16台、四輪車6台が商店街に進入。このうち1台の四輪車はバックで戻り、もう1台はUターンしたあ



信号のない交差点での自転車の行動(105台中)

		左右確認した	左右確認しない	計
一時停止した	子ども	1	2	3
	若者	1	8	9
	大人	5	17	22
	高齢者	2	0	2
	計	9	27	36
一時停止しない	子ども	1	6	7
	若者	1	27	28
	大人	3	26	29
	高齢者	2	3	5
	計	7	62	69
計		16	89	105

交通ルールを守って正しい姿勢で安全運転を

PROPOSE

観察の結果、自転車利用者の多くは交差点での一時停止や左右確認といった基本的な交通ルールを守っていなかった。商店街が歩行者専用道路になっていたのと、ここは生活道路だという認識が影響していたのか、行動に危険予測といった危機意識や緊張感がまるで感じられなかった。

今回、気になったのは、ハンドルを軽く握るだけの人や片手運転の人、人混み



を減速せずに走行している人などが目立ったことだ。とつきのときには、バランスを崩し、転倒しかねない。ハンドルは両手で確実に握るようにはしていない。また、歩行者は突然立ち止まったり、進路を変更したりと、予測できない行動をとることが多い。自転車は交通弱者ではなく十分加害者となりえる。危険予測をしながら、一時停止や左右確認など基本的な交通ルールを守り、周囲の安全をよく確かめながら運転してほしい。



観察地点 / 東京都練馬区旭丘1丁目1付近
観察日 / 3月18日(月曜日)
天候 / 晴れ
観察時間 / 15:55 ~ 17:25
観察者 / 3名